

# 令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月25日  
函館市立万年橋小学校

## 1 本年度の重点教育目標

「自立」「共鳴」「語先後礼」

## 2 本年度の取組の重点

- ①教科指導と生徒指導の一体化の推進      ②学校教育におけるユニバーサルデザインの推進  
③地域とともにある学校教育の推進      ④チーム万年橋の継続

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

| 分野                                                             | 評価項目                                                                                               | 自己評価結果 |                                                                                                                              | 学校関係者評価  |          |
|----------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|----------|
|                                                                |                                                                                                    | 達成状況   | 改善の方策                                                                                                                        | 自己評価の適切さ | 改善の方策の評価 |
| 1 授業改善の一層の推進<br>(「何を学ぶか」から「どのように学ぶか」へ、「Teaching」から「Coaching」へ) | 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて、ICT機器を活用した「指導の個別化」と「学習の個性化」による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図れたか。<br>S-cast | a      | 教師のICT技術力向上については、今後も教師間での教え合いや、情報共有を大切にしていける。さらに、必要に応じて研修の場を設定していく。                                                          | A        | A        |
|                                                                | 子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を与えることで、子供自身が、学習が最適になるよう調整する力(自己調整力)の育成ができたか。<br>S-cast       | a      | 今後もこれまでの取り組みを継続していく。                                                                                                         | A        | A        |
| ②家庭学習の質と量の充実                                                   | 「家庭学習の取組」「おすすめ学習メニュー」等を活用した指導を年度初めから継続的、重点的に実施し、「学年×10分+10分」の目安の達成できたか。<br>S-cast                  | b      | 本校における家庭学習の定義を一度整理する。                                                                                                        | A        | A        |
|                                                                | 「学ブンジャー」の取組状況に応じた個別指導の継続と、取組結果の家庭へのフィードバックを通して、家庭との情報共有が図れたか。<br>S-cast                            | a      | 今後も取り組みを継続していく。                                                                                                              | A        | A        |
| ③学習規律の定着の徹底                                                    | 「万年橋スタンダード」に沿って指導内容の重点化を図りながら、定着の状況を振り返り、定着に向けて繰り返しての指導を徹底したか。<br>S-cast                           | a      | ・万年橋スタンダードの項目については見直しをする必要はないと考え、今後も継続していく。                                                                                  | A        | A        |
|                                                                | 子供同士で話し合う活動を通して、学級のルールを定着させることができたか。<br>S-cast                                                     | a      | 今後も取り組みを継続していく。                                                                                                              | A        | A        |
| ④基本的な生活習慣の定着                                                   | ・朝の教師自らの語先後礼の継続による挨拶の意識の定着化、授業の開始と終了の語先後礼によるはじめ意識の醸成を実施し、学習規律(姿勢、返事等)の定着を図れたか。<br>S-cast<br>L-cast | b      | ・授業の始めと終わりの挨拶の語先後礼や、万年橋スタンダードに明記している学習規律について、今後も取り組み継続していく。<br>・朝の挨拶については全体的に活発になったが、今後も継続して声かけや学級指導を行う必要がある。児童会の挨拶運動も続けていく。 | A        | A        |
|                                                                | 「早寝早起き朝ごはん」の習慣形成に向け、登校時の指導の徹底、保健指導や食育指導の実施および家庭への啓発を行ったか<br>L-cast                                 | a      | ・保健指導や食育指導の効果が大きいので、今後も続けていく。                                                                                                | B        | B        |
| ⑤個に応じた支援の継続                                                    | 「温かい肯定的な雰囲気」の「集中できる環境」で展開される「わかりやすい授業」づくりに向け、教師間の日常的な授業参観による交流を行ったか。<br>S-cast<br>L-cast           | a      | 日ごろから教師間で情報交流を密にし、必要に応じて声を掛け合いながら、参観できるよう共通理解を図っていききたい。また、今後、必要があれば研修部の取り組みの一環として授業参観の場を設定していく。                              | A        | A        |
|                                                                | 算数科における少人数指導、TT指導を導入し、基礎・基本の定着を図ったか。<br>S-cast                                                     | a      | 今後も少人数指導体制の継続をしていく。                                                                                                          | A        | A        |

|                             |                                                                                            |   |                                                                                                                                                 |   |   |                             |
|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|-----------------------------|
| ⑥地域との連携の継続                  | 町会や地元企業、教育大学等と連携した本校ならではの教育の推進を継続しつつ、教育活動のねらいに立ち返った教育計画・記録の作成を図ったか。<br>CS 担当               | a | 地域との連携やゲストティーチャーの活用など、ここまで様々な人材を探し、その上その取り組みを続けているのは、先生方の「ほんの一手間」のおかげです。人とのつながり続けるのは苦労もありますが、「ほんの一手間」を続けて、子どもたちのより良い学びにつなげていく。                  | A | A | ・次年度も様々な教育活動を地域と連携して行ってほしい。 |
|                             | 五稜郭ネット小中一貫教育の目的実現に向けて、共有事項の連携を図り、小中の滑らかな接続を図ったか。<br>教頭                                     | a | 義務教育9年間を見通した…という言葉がよく目に入ります。まず私たちにできることは、中学校を知ること。その意味で、中学校の授業を見たのは、大きな一歩だと思います。五稜郭ネットには経営・くらし・まなび・つながりの部会があり、今後それぞれの部会で指導に係る詳細を話し合っていくことになります。 | A | A |                             |
| ⑦劣後の優先順位意識の徹底（働き方改革の定着に向けて） | 特別日課について、学習や生活のリズムの揺れを最小限とするよう、教育活動のねらいに立ち返り、活動内容の見直しを推進したか。<br>S-cast<br>L-cast           | a | 今年度より通常日課についても変更があったが（休み時間短縮等）、この点についてリズムのずれを最小限にすることができ、児童は落ち着いて学習に取り組むことができた。                                                                 | A | A |                             |
|                             | 教師主導の指導（全てを指示する指導）からの転換に向け、効率化を図りつつも、子供の主体性や協働性を高める指導を学校全体で推進したか。（「労少なく功多し」に向けて）<br>S-cast | a | ・今後も取り組みを継続していく。                                                                                                                                | A | A |                             |

■ 自己評価達成状況

|   |                |
|---|----------------|
| a | ほぼ達成できた（8割以上）  |
| b | 概ね達成できた（6割以上）  |
| c | 十分ではない（4割以上）   |
| d | 達成できなかった（4割未満） |

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

|   |                                |
|---|--------------------------------|
| A | 自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。   |
| B | 自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。  |
| C | 自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。 |
| D | 自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。         |